

ORERO



子午線WALK特集



KOBE FREE SCHOOL

地域の中の フリースクール

代表 田辺 克之

今年も年末恒例のもちつき大会がフリースクールの隣の畑で行われた。とにかく今年のもちは格別である。淡路島の社協の岩城さんと知り合ったのがはじまりで、岩城さんの両親と親しくなり、地震の震源地に近い一宮町に足繁く通うことがフリースクールの活動の大きな柱となった。岩城さんが提供して下さった広い田んぼに、ぼくらは自分で育てた稲の苗を手植えし、ひんばんに神戸・淡路間を往復して、ついに10月はじめ、二十数名の子どもとスタッフが稲刈りに出かけ、白米120キロもち米30キロをデットしたのだ。今年はそのもち米を使ってもちつきしたのだから、感慨は大きかった。2年前、田植えや稲刈りが初めてという者も少なくなかった。毎日口に入れている米を自分で植え、自分で

刈り取るという大きな経験をした。農家と全くつながりのなかった子どもやスタッフがお百姓さんの笑顔に出あった。岩城さん一家の温かい対応に、コミュニケーションにつまづき人間不信の強かった子どもたちの気持ちがあなごみ、心やさしい人たちとの交流によって開きされていた心の門がハズれるような体験をさせてもらった。いま「ここを育てる」ということが叫ばれながら、標語だけに終わっているように思われるが、フリースクールの子どもたちは、このささやかな米作りを通して、「ここを育てる」ことにつながったのではないかと思う。

子どもたちをこころよく受けとめていただいたことで、ぼくは細いパイプだけれど、都会の子どもと農家がつながったと感じた。すでに来年の米づくりの話題が出ている。天候に左右される農家の生活をかいま自然と折り合いをつけながら、風や雨やお日さんや、

大自然に生活を合わせるように生きている人たちがつながれたことに、僕は感動している。その米を淡路から神戸に持ち帰って、自慢の畑で『創立十四周年記念もちつき大会』と銘うつて、看板や風船を飾ってビルの谷間にキネの音をひびかせた。道行く人たちがその音に足を止め「なつかしい」「めずらしい」「うまそうや」と、子どもたちに語りかけ、飛び入りで腕に覚えのあるキネをふりあげるおじさんがいたり、近所の子どももお祭りさわぎではいでいた。できあがったモチは通行人に配り、ご近所にもおすそわけ。こうしてフリースクールは地域の中へどんどん溶け込んでいく。地域とつながったフリースクールには、子どもたちも安心して通い、地域の中で安心して過ごすことができると思う。どんどん溶け込んでいく。

「この居心地のよさは？」



草山 孝江

6月から時々、神戸フリースクールの来訪者として来ましたが、草山さん。現在、大学院の1年です。ウーセングの勉強なんぞやってます。身分は大学院生ながら、2人の時間やおばちゃんやまなで、11/2回のペースでやってきました。そこにしても、これはなんと懐かしい時間の空間なんだろうと、流れる空間に自分な時間を感じながら、自分が小学校時代通っていた児童クラブの思い出がよみがえり、心が半分、子ども返りしていると思ひます、たぶん。ここにきている間、わたしは何もしてません。ほんとに話できるかしら？と緊張してましたが、どんどん気持ちよく話してきて、なんかに一緒に座って落ち着く。それで聞いてみたんです。みなさん、聞いてみて、これからは居心地いいのうして、この心もびりびりやうてきて、ちよこつと気合い入らなあって、家に帰ろうって思ってます。ヨロシクネ。

編集作業の合間に。

TERA

現在、2003年12月5日19時15分。KFSにてオーレロ通信45号の編集作業中。今回も先生から原稿を依頼され（今さっき）こうしてキーボードに向かっている。田辺先生からPCやホームページなんかの事を書いてくれと頼まれたのだが、どうもややこしい話しか書けそうにないので、一文だけにまとめた『フリースクールのホームページを改造して、俺以外のスタッフでも更新できるようにした』こんな感じだ。そうそう、パソコンの事と言えば、私事になるのだが、俺は今、とある作品を制作中だ。これはかれこれもう一年半以上前に作り始めたもので、未だ完成していないが、家で暇を見つけてはこつこつと作業している。まあ、完成したらKFSのホームページからリンクを貼らせてもらうことにしようと思うので、その時は見てやって下さいな、と。

……いつになるかは全く未定だが。
今から遡る事約5時間前、原付で捕まって免許確定してちよつぱり、いや多分にブルーなTERAでした。



ちーりんのにぎにっとう

はたけのねこ

夏から住みついているおチビたちがいる。夜ごはんをあげることが多いのだけど、彼（彼女？）たちを見ていると、犬派の私は時々思う。「夏はあんなに小さくてかわいかったのに…」道端で見る、おとなになって生意気な顔をしたネコたちを「かわいい」なんて思ったことはない。でもこれだけ毎日のようにごはんをあげて、ひとりで「おなかすいたのぉ？」「ちよつと待ってねえ～」なんて話し掛けていると愛着が湧いてきた。今では、大きくなった姿も十分かわいい。束縛を嫌って、あちこちを歩きまわっているにも関わらず、食欲には勝てないらしい。ごはんをもらえると学習し、私たちに近づくようになってきた。手を差し出すと向こうも慎重に手を出し、ちよつと触ってみるという、馴れているんだか馴れていないんだかわからない関係が出来上がっている。ビョーな関係といったところだろうか。好きなときに愛想をふりまき、ちよつと「チャー」と鳴いて相手をいい気にさせておいてごはんをもらおうなんて、なんて賢い！私はその術中にはまっているのだ。はまっているとわかっていても、ごはんをあげなくなるなんて…ネコの賢さに敬服してしまう。これは学ばなければならない生きていくための秘訣だろう。

子午線ウォーク日誌

奥ちゃん

子午線ウォーク日誌

2003年10月25日（土）から26日（日）にかけて、第10回子午線ウォークを実施。例年どおり明石天文台を出発点に、日本の中心、西脇市の「へそ公園」を目指しました。しかし今回は第10回目ということ、いつもと趣向を変えようと、先生が新しいコースを開拓してくれたため、何度も『子午線』を経験している人にとっても、新鮮なイベントとなったと思う。一日目は、明石天文科学館から、宿泊所の小野研修センターに向かった。明石から小野まで約40km、朝8時半に出発、夜の7時頃には到着。完歩した人、途中で足を痛めたてしまった人、さまざまでしたが、みんな一日を歩ききった達成感で満足そうだった。夕食には、食事班の助太刀に水本さんと杉浦さんが来てく

ださり、おいしいカレーライスを味わった。

二日目は、小野研修センターから、最後の目的地、「へそ公園」に向かった。

小野から西脇まで約25km。昨日の疲れもなんのその、自信たっぷりの足取りで不思議と疲れを感じることもなく、長い峠を越えて「へそ公園」に到着。滑り台で存分に遊びました。ひたすら歩くのはしんどいことだけ、仲間と遊びながら、励ましあいながら歩く『子午線』は、とても楽しい思い出となった。

※おまけは水本荘でのバレーキューと温泉ざんまい。水本さん今年もほんとにありがとうございました。



歩き歩き...

城間 雅之

7年ぶりの子午線ウォーク
：いやー...老いたネ。

足はイタイしハアハア息は切れるし、お腹がすく...。
序盤はハイペースだったのに、後半グズグズでした。

しかし今回はキツかった...
今までとは違う道を開拓し、距離が微妙に伸び、数多くの英霊たちが追い求めた夢のシヤングリヲを目指したただひたすらテクテクと...。

あー...痩せて体力つけなきゃコリヤダメですな。
頑張れ...俺!!

恵理那ちゃん

みかちゃん

ひがしくん

みんなから質問!

Q よっぴー...一番幸せだと思える瞬間は?

えりな

えりな...ふとんに入ったとき。ねれるーって思ったら和む。

えりな...ふとんに入ったとき。ねれるーって思ったら和む。

みか ...給料をたくさ〜んもらった時。
ひがし...食べてる時。

Q ちくりん...子午線

どうだった?

えりな...足いたかった。でも、1日目に最後まであるけたからうれしかった。

みか ...ケツ筋痛かった...でも、楽しかった!へそっ!!

ひがし...つかれた。

Q メイ ...何でフリースクールに来たの?

えりな...親のしようかいで...マリヤリ来た。

みか ...車で。ひがし...にんでくんのしようかい。

Q おく

好きな食べものは?

えりな...ハンバーグ、グラタン、わがし。

みか ...カラアゲ、奥ちゃんの料理!!

ひがし...すし。

Q らん ...これからやってみたい事は?

えりな...バイトやってみたい!働いてみたい。

みか ...またみんな旅行がしたい!

ひがし...楽しい事したい!!

ひがし...なし。

Q とっしー...自分はバカだと思えますか?

えりな...とっしーの...ほうがバカです。

みか ...お前の方がバカやつ! (笑)

ひがし...いいえ。

Q えりな ...今ほしい物は?

えりな...服とぼうし。

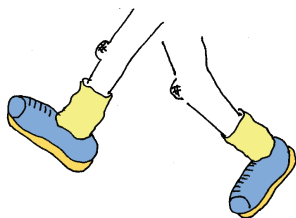
みか ...キヤップがほしい。

ひがし...現ナマ!服ほしーっ!!ゲーム。

子午線ウォークの感想よー。

歩きました。ええ、歩きましたも。だんだんいなかになって景色がながめながら。空が、あ、高い。夕やけがキレイで... ねーんとちょっとロマチック... かも。足はガクガクになって、夜はくらくて寒かったけど。でも、去年よりたくさん歩いて、大満足〜♪でした。

そんな感じの、今年の子午線ウォークでした。チャンチャン♪



ハジメマシテ☆

私の名前は、屋葦麻里です。このフリースクールに入ってきたきっかけは、集会に行つて、神戸フリースクールの活動が楽しそうだったので行つてみようと思ひました。初めて来た時は友達ができなかったけど、いろいろと心配してはいたけれど、アットホームな感じですぐに溶け込む事ができました。毎日が刺激的で、良い所にめぐり合えたと思ひました。今は体験入学中ですが、これからもがんばつて来たいです。

よつぴーです

初めましてです。近頃、入学いたしました。岩本です。(よつぴーと名付けてもらいました。)大阪の豊中に住んどります。こんな私ですが、どうぞよろしく★

新メンバー
よつぴーに質問!

インタビュアー
メイちゃん・あやちゃん

メイ

…どうしてここを知ったの?

よつぴー インターネット

みて。(私がみつけたの) 見学に行つたところは他にもあつたけど、男の子だけだつたから…

メイ

…ここに行きたいと思つた理由は?

よつぴー 見たときは、他よりも活動的で、大きいところだと思つてた。みんなの中に入つていけるか不安だつた。

メイ

…来てみたときに何か思つた?

よつぴー 大きいイメージをもつてたから、アットホームでいふなつて思つた。思つたよりも入つていきやすかつた。

一寸ほつとした。

あや

…趣味は? 好きなことは?

よつぴー けんしろう。インターネット

やつ。昨日は毛方に二に送つたの。当たり前ですよに!

あや

…先生の印象は?

よつぴー

…つかめない人だなあと思つた。

あや

…フリースクールに行くつていつたとき親の反応は?

よつぴー

…はじめは行けほつて言われたけど…学費がねえ…つて言われた。

第四章

メイメイ

私は不登校4年生。今の私の不満は中学校の先生が「大森さんは体調が悪くて休んでる事になっている」と言う事。私が学校へ行くのか行かないか迷つてた頃、私の同級生で2〜3年

不登校の子がいた。でも私は、転校したと聞いていた。もしかしたらその子がそう言つて欲しいと希望したのかも知れないけど。今回、私は先生に「不登校ですと言つて下さい」と頑張つて言つた。先生は考えさせてくれと言つた。私は、自分自身でありたいだけなのに何故不登校にこだわるのかなあ。学校もきつと楽しい事がいっぱいあり、大切な思い出に残る事だろう。でもそれは、学校だけじゃなく、どんな場所になつてある。不登校とかひきこもりつて言葉が簡単に使われているが、教室にいる子もいない私も同じように、認められたいのにな。早く先生達も不登校になれてくれたらいいのにな。でも私はふと考える。不登校せずに学校へ行つてたら知る事のなかつた世界がある。不登校をしていろんな事を感じ、いろんな事を知り大変だつた事もあるけど、やつぱり私は、いくら大変だつたとしても今の自分でいられる事が、幸せかなあと思ひます。

田辺先生との出会い

(オーレロ通信43のつづき)

福田 五十鈴

子供が学校へ行けないという現実生きて、ひどく孤独でした。

田辺先生の話を聴いて、『不登校の子供を学校へもどす』という議論の中に居ることが、わたしに否定的な感情を持たせているように思えました。『不登校は子供が生きていくために選んだ大切な選択である』という、視点を先生から教えて頂いて、親として存在することに、肯定的な意味を見出せそうで、癒された気持ちになりました。わたしは、先生との出会いによって元氣を取り戻しました。そして、本来自分が持つていた力以上の力を、子供を後ろから見守っていくという行為を通して与えられていくように感じるので、それは自分のつらい体験によって得られた心の強さであり、痛みを感じるという感情の部分について成長しているように思います。

先生には愚痴や不登校の親が語る苦悩を聴いてもらっています。わたしはそこには子どもを『ケアをする人のケア』が存在していると思います。我が子が不登校という道を歩むとき、不登校は健全ではないといった社会的な規範の中にあつて、親は苦悩し孤立しやうで、親もケアを受けることで、子供の成長に向き合い自分が生かすための心のゆとりが生まれます。そして、人間として本質的な学びを深める体験に出会う機会を、数多く与えられていることに気づいていくのです。



本との出会い

□ 大石 寿子

本を読むことというか『文字』を読むのが好きで、新聞は隅々まで、雑誌、チラシ、会報、とにかく何か書いてさえあればジャンルを問わず読んで楽しんでる私。

何処へ出かけても本屋さんに寄りたくて、学生の頃なんか、高知のすごい田舎の小さな薬局兼、雑貨屋兼、お菓子屋さんの片隅にあつた本屋さんコーナーで文庫本を買ったりもした。

独身の頃は読みたいと思う本を見つけたと何冊も買って、その日は幸せいっぱい、寝る間も惜しんで読みとまた出かけて買ってくる私のおこづかいが全部本と油絵具代だった。結婚して子どもが出来てからは、子どもが小さい時は寝かしつけながらとか、お料理中おなべの中をかき混ぜながら読み、そのうち子どもに絵本や児童書を読んであげる

ということも加わり、ますます楽しみが増えていった。そして今はというと、相変わらず手あたり次第に読み散らかしているが、さすがに年令とともに体力も衰えてきて、かつての私が『本を読みながら眠ってしまっなんて信じられない!』とケイベツをこめて言っていたことをしてしまっているのだ。

そんな私に「私がおもしろかった本」について気ままに書くことを勧めてくださったので、たいしては、あーおもしろかったな、いいこと書いてるなあ、このひと(作家)もすごくうまくなつたなあ、なんてひとり満足感に浸るだけだったけど、もしかしてこの幸せを共有できるひと(今は娘と娘の友だち)とめぐりあえたら、またひとつそういう楽しみが増えると思つて、うれいような苦しいような気分の中書いていくことにした。

次からいろんな本、雑誌、コミックも含めてアトランダムに紹介していきます。

通信費カンパ ありがとうございました

原田 ヒロエ
所 薫子
掛橋 智佳子
坂口 和義
守屋 哲
中嶋 正彦

(敬称略)

メンタルフレンドのお知らせ

『心の友』・・・なんて大げさなものではないけれど、
「不登校してて、ひとりで過ごしてるのがつまんな〜い」
って思っている子どもたちのもとへ遊びに行く
おにいさん・おねえさんがフリースクールで待ってま〜す！
子どもたちの希望にあわせて、ピッタリの人を選びます。
顔合わせの上で決定しますから、ご安心を。
お問い合わせは、神戸フリースクールor
不登校ネットワーク兵庫(078-366-0367)まで。

集案案内

○12/20(土)・1/17(土) 親の会

それぞれ14時〜16時。神戸フリースクールにて

○2月開催予定 こども人権フェスタ2004

こどもにとって大切なこと、こどもの権利についてみんなで考えます。詳しい内容は次号(?)にて

○3/11(木)〜14(日) ArtParkFesta (表現展)

不登校の子どもたちの表現の場。いろいろなアートでいっぱいになります。
是非遊びに来てくださいね。神戸アートビレッジセンターにて(新開地)

他、不登校の集案も1〜3月に行います。お楽しみに！

編集後記

◎毎月の盛りだくさんな行事をせかせかとこなしているうち、あっというまに12月。

今年はコープこうべから「虹の賞」をいただき、県から事業委託を受け、ファイザー製薬の助成も決定、
これまでになく忙しく楽しい1年だったよ〜。

◎兵庫県から「不登校キャラバン」の事業を委託され、神戸市の新人研修場所に指定され、
高知県・滋賀県の教育委員会の視察があり、西宮公民館・大阪城北センターから講演依頼があり、
社会教育学会からもお呼びがかかったりで民と公の距離が急速に縮まってきたように思う。
いやもう民や公などと言っている時代ではないのだろう。

◎オーロラではない、「オーレロ通信」ですからおまちがいないく。

オーレロとはスペイン語で「夢を追う人」ということらしい。ぼくらはあいかわずオーレロの民。

◎明石に念願のフリースクールをオープンして半年、子ども達は別荘ができたような気分で利用している。
神戸とちがって荷物がなにもないだっ広い空間で、最初はごろごろしていたのが、
手芸の達人チーちゃんの出現で、みんなクマさんのぬいぐるみづくりに時間を忘れている。
淡路島が一望できる静かな空間へ一度お立ち寄りください。

発行/ 神戸フリースクール

お問い合わせ・TEL & FAX 078-366-0333

住所・兵庫県神戸市中央区下山手通8丁目8-10

homepage
WWW.FREESCHOOL.JP/KFS
e-mail
TOKASYA@HOTMAIL.COM